

現役生のみなさん 私たちはいろいろな仕事で頑張っています

緑友会では 2 年前に現役性に対して職業体験を披露する総合学習授業「職業人に聞く」に協力いただける方を募集し、多くの方の応募をいただきました。

しかしながら、その後総合学習授業の見直しやコロナ過の影響により、長らく発表の機会がないまま推移しています。

そこで、応募いただいた方々の中から 3 名の方にその経験を披露いただきました。

なお、緑友会ホームページにて、それぞれの詳細を掲載しています。興味を持たれた方はぜひ、そちらもご覧ください。
URL <https://ryokuyukai.club/wp/>



松岡 卓

(52 期生)

株式会社ナードケミカルズ勤務)

皆さんは化学と聞くとどういう印象を持つでしょうか。白衣を着て、試験管を振って、新薬を開発する。恥ずかしながら、大学に入るまで私もそのように漠然とっていました。

実はそういった創薬と呼ばれる分野は極一部であり、私はそれとは異なるプロセス化学という分野で研究開発・製造を行っています。皆さんのイメージとは異なり、毎日作業着、

ヘルメットを被って工場に行き、創薬で見つけられた医薬候補品を育て上げています。

皆さんは手元にある薬がどの薬局に行っても当たり前のようにあると思っているかもしれませんが、この「当たり前」はプロセス化学者の努力の結晶です。この「当たり前」を達成するために毎日毎日頭を悩ませています。効率性、生産性、安全性を考えながら、ここで作られたものが世の中に出て人の役に立つ。それこそがプロセス化学の醍醐味でもあり、楽しみでもあります。



浦 隆文

(33 期生 農林水産省)

就職する前は、やりがいとか仕事の中身は十分に検討せず、「国家公務員になれば身分が保障されており生活が安泰」で、「決められた仕事をしていれば給料がもらえる」とか、「魚が好きだから」くらいのお気楽な気持ちでした。

愛媛統計情報事務所では、愛媛県の宇和島市で農家さんや漁家さんへ調査に伺い、農業や漁業の大変さを理解し、食べ物に対する感謝の気持ちが生まれました。

東京での勤務は、職場に泊まることもあり非常に過酷でしたが、国際交渉の基礎資料となる水産資源の調査、漁業に関する島国への国際協力などを担当し、日本や海外の漁業者さん達、ひいては広く国民のために働くことができました。

外務省出向により、島国の在外公館に勤務した際には、政府開発援助 (ODA) による経済協力を担当し、現地の人々と協力しコミュニティでの生活向上や産業が限られた地域における新たな産業振興など、非常にやりがいのある業務に携わることが出来ました。



安田 寛

(11 期生 建築業)

私は積水ハウスにて建築技術情報処理担当を経て建築現場担当に就きました。

最初から建築業を目指したのではありません。大学では好きな核物理の勉強を行いましたが、常用してきたコンピュータのプログラム経験を活かしソフトウェアハウスに就職しました。その後、縁あって積水ハウスに転職しました。

そこでは建築情報のコンピュータ化の真っ最中で、自動積算システム、建築 CAD、建築技術情報のデータベース化などに取り組みました。また、阪神淡路大震災のあと復興住宅の建築にも携わりました。

建築の仕事といっても色々あります。著名な建築家や建築事務所にて設計をすること、そのバックで実際の構造設計や

設備設計と環境設計を行うこと。また、私のように大きな会社の開発設計部門に就くこと、建築現場における現場監理を行うこともあります。

はじめは設計を行うだけで建物を作っていると思っていましたが、建築現場担当になってみるとリアルな建物を作ることの面白さに気づきました。

夏は暑く冬は寒い、朝早くから夜遅くなることもあり、実際に作ってみると設計時には気付かない種々の問題が出てきて現場で解決しなければならないとか、建築現場が遠かったり、近隣対策で苦勞したりと、いろいろ障害もあります。

でも何か形が残るものを作る仕事は楽しいですよ。

